

建築がつくる景観

～自然と建築が織りなすまちの景色・風景～

三橋 修

建築

まちづくり

修景（景色・風景）

研究室の所在：環境都市デザイン工学科棟3階

・なぜこの研究をしているの？

心地良いまちの風景とは、自然と、建築、土木、工業製品、及び人間が造るもの等が調和し、相乗効果を生んでいます。良い景観は人々を幸福にできるので、その調査・研究をしています。

・具体的に今やっているのはどんなこと？

高知県においては、東端部の室戸世界ジオパーク、及び西端部の土佐清水市を研究対象地にしています。自然、特に注意しなければ目につきにくいジオ（地質、地層、地形）を基にして成る自然と、建築、土木（道、橋、公園等）、及び工作物（工業製品、木工製品等）が織りなす景観を修景（人の手が加わった景観）と定義して、その修景の魅力を住んでいる人々をはじめ、多くの人にわかってもらおうと日々研究に励んでいます。

・研究成果はどのようなモノやコトに役立つの？

土佐清水市を研究対象にしたものは、来年以降、日本ジオパークの認定を受けるのに微力ながら役に立てればと思っています。

高知県は恵まれた森林を有している一方、皆さんのような若者の県外流失、及び人口減少という社会問題があります。高知の修景の素晴らしさが高知県の抱える問題解決の糸口になるのではないかと考えています。